

## 精霊棚

しょうりょうだな

市内の旧家では、お盆の8月13日に精霊棚を設え、門口で迎え火を焚いてオショロサン（先祖の精霊）を迎えます。精霊棚のようすを写真で見えていくことにしましょう。写真1のお宅はザシキの年神札の下に精霊棚を設えています。棚の上部に縄を渡し、田畑から抜いてきた作物、右から順にホオズキ、ニンジン、稲穂、大豆、小豆、落花生、ゴマ、ホオズキを吊るして豊作を祈ります。

背後には十三仏の掛軸を下げます。十三仏とは初七日から四十九日までの七日ごと、百か日、一周忌、三回忌、七回忌、十三回忌、三十三回忌の13仏事に配当された13



写真1：平塚市岡崎



写真3：平塚市土屋

の仏のことで、お盆には多くの家が飾ります。台の上には仏壇からとり出してきた仏像と先祖代々の位牌を並べます。足付き膳の上にはオショロサンの乗物であるナスとキュウリの牛馬、サイの目に切ったナス、ミソハギが置いてあります。精霊棚へお参りする度にミソハギを水に浸し、サイの目のナスへ振りかけます。

お盆の期間、オショロサンに供える食事は毎度変わります。写真は13日午後にアンコロ餅と伸し餅をお供えしたところ。それぞれオガラを二本刺し、里芋の葉にのせて供えています。畳に敷いたゴザの上の小皿（写真2）に注目してください。中にアンコロ餅が入っています。これはムエンサンといって、まつり手がない精霊への供物で、オショロサンと同じ食事を毎度ムエンサンにも供えます。

オショロサンは8月15日に近くの町や天竺へ買い物に出かけるという言い伝えが市域に広くあり、オショロサンに持たせるお弁当とお金を供えます。写真3のお宅のオショロサンは秦野か平塚の町へ買い物に行くということで、海苔を巻いた小豆飯のお握り3個をお弁当として供えています。ナスとキュウリの牛馬の背に半紙が掛けられている

ことに注目してください。半紙の中にはお札が入っていて、これがオショロサンのお小遣いになるのです。

お盆は先祖と子孫の交流の機会であり、まるで生きている人をもてなすかのような温かい心づかいが感じとれます。人々はこうした先祖祭祀をとおして家の繁栄と永続を先祖に願ってきたのです。

（博物館学芸担当）



写真2：小皿

## 平塚市文化振興基金にご協力を!!

平塚市文化振興基金にご寄附をいただいた方（敬称略）  
（H23.1月から3月まで）

■ 湘南ステーションビル(株) (23.3.2)

■ しんわ本人自治会 (23.3.2)

■ 平塚市民センター募金箱